

## 第1回都市総合開発審議会 会議録

I. 開催日時 平成30年8月8日（水）午後2時00分から午後4時15分

II. 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 8階防災室・会議室

III. 出席者（敬称略）

【審議会委員】

阿曾祐佳、植田憲、荻原薫、鹿島典子、鎌田哲也、佐久間崇夫、佐藤泰、鈴木克己、  
瀬沼健太郎、中村和人、中村俊昭、野口義信、平野弘和、松田紀道

【木更津市】

渡辺市長、山口企画部長、石井企画部次長、小原企画課長、亀田主幹、浦邊主査

【日本経済研究所（委託会社）】

佐藤常務、高崎主任研究員、中山研究員

IV. 議題及び公開非公開の別

（1）正副会長の選出について 公開

（2）第2次基本計画について 公開

①策定方針について

②スケジュールについて

③市民アンケート結果について

④基礎調査報告について

（3）その他 公開

V. 傍聴人の数 0人

VI. 会議の内容

### 1. 開会

○企画課亀田主幹

ご案内の通り、第1回都市総合開発審議会を開催いたします。なお、本日の審議会につきましては、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、予めご了承ください。それでは、議事に入る前に、渡辺市長からご挨拶申し上げます。

### 2. 市長あいさつ

○渡辺市長

皆様、こんにちは。木更津市長の渡辺でございます。本日は大変お忙しい中、また大変、暴風暴雨の中、都市総合開発審議会にご出席いただき有難うございます。ただいま、都市総合開発審議会の委員として委嘱状を交付させていただきましたが、公募委員の佐藤様、中村様ほか、委員の皆様に快くお引き受けいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

と思います。また、日頃から市政各般にわたってご指導ご協力いただいておりますこと、改めてこの場をお借りしまして感謝申し上げたいと思います。

さて、本審議会は、附属機関として、本市のまちづくり全般についてご審議していただき、必要な事項を答申または建議していただくものでございますけれども、今回皆様にご審議いただく内容は第2次基本計画についてであります。

現行の第1次基本計画は、基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、第一歩を踏み出すプランとして策定して、様々な施策を推進してまいりましたが、今年で計画期間が終了いたしますので、平成31年度からの新たな行政運営の指針となる第2次基本計画の策定にあたりまして、皆様にご提言やご助言をお願いするものでございます。

本市では、東京湾アクアライン通行料金引き下げの波及効果、またはこれまで着実に積み重ねて参りました様々な施策の効果、また、皆様のご協力によりまして、定住人口・交流人口が増えております。「未来へつながる市民総出のまちづくり」に取り組んでおります本市にとっては、明るい話題が大変多くなってまいりました。一方で、日本では人口減少が進んでおりまして、これまでの経済や社会システムが行き詰まりを見せているのは、事実だと思います。

そんな中、今後は本市が持続可能なまちとして存在していくために、変革する大切な期間であるというふうに捉えております。そこで、市政運営の3つのポイントであります「木更津力のさらなる強化」、「支えあいのある地域づくり」、「持続可能な社会システムの構築」の視点に立った施策を総合的かつ計画的に推進して参りたいと考えております。

委員の皆様からの貴重なご意見やご提案を賜り、市民のチャレンジが生まれ、人・もの・文化が循環する、自立した地域づくり、「オーガニックなまちづくり」のステップアップとして、これからの木更津市に対応した実効性のある計画を策定して参りたいと考えておりますので、十分ご審議を賜りますようお願い申し上げます。以上、冒頭のあいさつとさせていただきますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### **3. 議題**

#### **議題（1）正副会長の選出について**

##### **○企画課亀田主幹**

附属機関設置条例第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となるとなっておりますが、本日は第1回目の審議会でございます。会長・副会長選出までの間、市長が仮議長を務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

##### **○渡辺市長**

ただいま事務局から説明がございましたとおり、本日は第1回目の審議会でございます。正・副会長が決まるまでの間、仮議長を務めますのでよろしくお願いします。着座にて失礼いたします。

本日の出席者は14名であり、附属機関設置条例第6条第2項の規定により過半数を超

えておりますので、会議は成立とさせていただきます。本日の審議会は、木更津市審議会等会議の公開に関する条例の規定により、公開となっております。会議資料及び会議録も公開となります。なお、本日、傍聴希望者はおりませんのでご報告をさせていただきます。

それでは、議事に入ります。議題1、「正副会長の選出について」を議題とさせていただきます。正副会長の選出については、いかがいたしましょうか。ご意見があれば、よろしくをお願いします。

#### ○鎌田委員

私のほうから僭越ながら推薦をさせていただければと思います。まちづくりに対する思いやご見識を考えると、会長には木更津商工会議所の鈴木会頭、副会長には観光協会の野口会長が適任かと思います。以上です。

#### ○渡辺市長

ただいま会長に、木更津商工会議所の鈴木委員を、副会長に観光協会の野口委員を推薦する旨のご発言がありましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議がございませんでしたので、都市総合開発審議会の会長は鈴木委員、副会長は野口委員にお願いしたいと思います。

それでは、今後の審議会の進行は会長が務めることとなっておりますので、以上で私の職務は終わらせていただきます。ご協力有難うございました。

#### ○企画課亀田主幹

それでは、鈴木会長におかれましては、お席のご移動をお願いいたします。鈴木会長から、ご挨拶をよろしくお願いいたします。

#### ○鈴木会長兼議長

ただいま会長に信任していただきました木更津商工会議所会頭の鈴木でございます。ぜひ、皆様方のお力をいただきながら、木更津市が未来につながるような、未来に輝くようなそういうまちにするために、お力添えをいただければと思います。今日は台風が近づいておりますので、効率的に、しかも中身も濃くやっていければと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○企画課亀田主幹

有難うございました。続きまして、野口副会長からご挨拶いただきます。

#### ○野口副会長

木更津市観光協会の野口でございます。ご指名をいただきましたので、知識不足等もあるかと思いますが、皆様方のお力添えの中で務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○企画課亀田主幹

それでは、鈴木会長に議事の進行をお願い申し上げます。

## ○鈴木会長兼議長

それでは会長が議長ということですので、私の方が議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力のほど、よろしくお願いいたします。早速議事に入りたいと思います。議題（２）木更津市第２次基本計画について、事務局からの説明を求めます。

## 議題（２）第２次基本計画について

### ○企画課小原課長

木更津市企画課の小原でございます。私のほうから説明をさせていただきます。まず、本日の議題に入ります前に、ご確認をいただきたいと存じます。

手元に、「きさらづ未来活力創造プラン」の概要版をお配りしておりますので、お手に取っていただければと思います。この「きさらづ未来活力創造プラン」は、第１次となる木更津市の基本計画の概要版となっております。これについては、今年平成３０年度までの４か年プランを策定した際に概要版として作ったものでございます。すでに予め委員の皆様のお手元には、こちらの本編となる冊子をお届けさせていただいていると存じます。

まず、今日私のほうから説明させていただきますのが、今回、皆様にご審議・ご意見を頂戴するのが、どの部分なのかの説明をさせていただきます。開いていただいて、右下に三角形の形をしたものがございます。

先ほど、本日から２年間の委嘱状を交付させていただきましたが、委員の皆様には今年度策定いたします第２次基本計画につきまして、ご意見等をいただくこととなりますので、この後スケジュールにつきましてご説明をいたしますが、本日を含めまして、２年間の委嘱期間ではありますが、今年度３回の会議にご出席をいただきたいと存じます。

三角形のところをご覧いただきたいのですが、このなかで皆様にご審議いただきたいのは、一番上のオレンジ色の部分につきましては、木更津市の最上位に位置します「基本構想」と言われるものでございまして、平成４２年度、西暦にして２０３０年度を目標年次といたしまして、平成２６年３月に策定をいたしました「基本構想」というものがございます。この２０３０年までの基本構想、木更津市のまちづくりの大きなビジョンとなります。この構想を実現するために、一つの区切りを４か年として、その下にございます黄緑色の部分、「基本計画」というものを木更津市では策定しております。４年度毎に木更津市が取り組む具体的なプランを、この基本計画の中で表して参ります。

今回、皆様方からご意見を頂戴したいのは、この真ん中の黄緑色の部分の第２次となります基本計画の中身についてでございます。現行の第１次基本計画は、平成３０年度で終了となりますので、来年度３１年度をスタート年次といたします第２次基本計画につきまして、ご意見を伺っていききたいと存じます。

### ① 策定方針について

#### ○企画課小原課長

資料１、策定方針につきましてご説明をさせていただきます。

一つ目、基本計画等の策定趣旨でございますが、本市におきましては、平成２６年３月に改訂をいたしました木更津市基本構想の将来都市像「魅力あふれる創造都市きさらづ～東京湾岸の人とまちを結ぶ躍動するまち～」の実現に向けまして、第１次基本計画「きさらづ未来活力創造プラン」に基づいて、諸施策を推進して参りましたが、今年度平成３０年度で計画期間が終了しますことから、これまでの取り組み等につきまして効果検証を行ったうえで、多様化するライフスタイルや、様々な年代のライフステージに応じました市民サービスを提供するため、本市の今後４年間における取組を明確にし、市民・団体及び企業等のあらゆる力が有機的に繋がりながら、持続可能なまちとして発展することを目指し、策定するものでございます。

次に２．基本計画等の構成でございますが、第１次基本計画と同様に、基本構想、基本計画、実施計画の３階層となって参ります。そのうえで、第２次基本計画につきましては、平成３１年度から平成３４年度までの４ヵ年を計画期間といたしまして、今後４年間に実施する施策の目標、現状と課題、課題解決の方向性、主な取組の概要、施策目標の実現に関する指標などを位置づけて参ります。

また、実施計画につきましては、主な取組の根幹的な事務事業などにつきまして、基本計画期間でございます４年間の事業費を裏付けした中で、毎年度見直しを図り、その年度の予算確定後に公表して参ります。

３番目、基本計画等策定の基本的な考え方でございますが、まず、（１）第２次基本計画期間内で重点的に取り組むテーマを総論に位置付け、社会経済情勢に適切に対応したまちづくりに向けた取り組むべき施策を戦略的に位置付けて参ります。

（２）基本構想における５つの基本方向・２０の基本政策の方向性や、第１次基本計画となる「きさらづ未来活力創造プラン」の成果や課題を踏まえまして、これからの４年間において取り組むべく施策等を分野別に位置付けて参ります。

（３）市長マニフェストにつきましては、施策体系別に整理した上で、未来を見据えた中で、この４年間に取り組むべき施策及び事業を基本計画等に反映して参ります。

なお、市長マニフェストにつきましては、参考資料１として、配付資料に混ぜておりますので、また後ほどご覧いただければと存じます。

（４）行財政改革の視点による事業の見直しや財政計画との整合を図りながら、持続可能な行財政運営を目指して参ります。

（５）総論部分におきまして、重点テーマの一つとして、「オーガニックなまちづくり」を位置づけるとともに、理念や考え方につきまして、分野別の各施策に反映して参りたいと考えております。

（６）これからのまちづくりの一翼を担う市民等と市の方向性を共有するため、見やすく、分かりやすいレイアウト・デザインの計画として参ります。

続いて、４．策定体制でございますが、この都市総合開発審議会で委員の皆様のご意見

等をお伺いするほかに、市役所庁内におきましては、各部の次長級で構成いたします総合計画策定会議を中心に検討を進め、政策調整会議・総合政策会議といった市の意思決定機関を経て、決定して参ります。

５．策定スケジュールにつきましては後ほどご説明させていただきます。

６．基本計画等の進行管理でございますが、取り組み結果につきましては、年度終了後速やかに実績に基づく事後評価を実施し、施策の推進に役立てるとともに、新規事業等の見直しを含め、翌年度の市政運営の基本的な考え方や予算編成方針などに反映させて参りたいと考えております。以上が策定方針についての説明となります。

## ② スケジュールについて

### ○企画課小原課長

続きまして、基本計画等策定に係るスケジュールについて説明をさせていただきます。

まず市役所庁内におきましては、各施策や事業に対するシートの作成が終了しております。今後企画課において各部等へヒアリングを実施した上で調整をして参りたいと考えております。

また、この都市総合開発審議会につきましては、第１回目が平成３０年８月８日（本日）、第２回目を平成３０年１０月から１１月にかけて１日行いたいと思います。第３回目は、平成３１年１月から２月の間で調整をさせていただければと存じます。

なお、平成３０年１２月を目途に、第２次基本計画の素案を作成しまして、市議会へ説明等行った上で、意見公募（パブリックコメント）を実施し、平成３１年３月に第２次基本計画を決定し、公表して参りたいと考えております。ご理解いただければと存じます。私からは、以上でございます。

### ○鈴木会長兼議長

ただいま策定方針とスケジュールを一括して、説明をしていただきました。皆様からご質問とかご意見等ありましたらお願いします。もし何かありましたら後ほどでも構いませんのでお願いします。それでは続きまして、市民アンケート結果について及び基礎調査報告について一括して説明をお願いします。

## ③ 市民アンケート結果について

### ○日本経済研究所高崎主任研究員

資料４アンケート報告の説明をさせていただきます。１ページ概要から説明申し上げます。今回実施しましたアンケート調査でございますけれども、６月８日から７月６日までの期間で実施いたしました。合計で１，９９２枚配布いたしまして有効回収が９４４件、回収率が４７．４％という結果でございました。この結果からまず申し上げたいこととしては、回収率が非常に高かったということがございます。弊社で行っているアンケートですと、通常３割後半いけば高かったと判断するところ、５割近い数字がございましたので、

非常に市民の関心が高かったのかなと考えております。

2 ページ以降、アンケートに回答いただいた方の属性を説明申し上げます。まず2 ページ、性別、年齢でございます。参考といたしまして、下に住民基本台帳または国勢調査の結果を付しておりますけれども、概ね住民基本台帳や国勢調査と、同様の比率でございますので、市民の大多数、代表的な数字が得られたのかなと考えております。

続きまして3 ページ、職業あるいは通勤・通学先でございます。右側、通勤・通学先でございますけれども、回答いただいた方の多く、約半数が木更津市内、約3割が周辺市、約1割が都内に通勤・通学されているという結果が分かっております。

続きまして4 ページ、居住地区・居住期間でございます。居住地区につきましても住民基本台帳の参考資料をつけさせていただいておりますが、こちらにつきましても概ね現状を反映した回答結果であるという風に考えております。また、居住期間につきましては、21年以上住まわれている方が多く回答をいただいております。

5 ページは省略させていただきまして、6 ページから、市民アンケートの調査結果を順次ご説明申し上げます。

まず6 ページ、木更津市のイメージについてお聞きしております。問1「木更津市に愛着や誇りを感じていますか」といったところをお聞きしましたところ、約7割5分の方が「愛着や誇りを感じている」、「少しは愛着や誇りを感じている」という状況でございました。また、この結果を居住年数別で見ましたのが、円グラフの下にございます棒グラフでございます。こちらを見ますと、概ね居住年数が長くなるほど愛着を感じていると、逆に愛着を感じているから長く住んでいるのかなという風にも考えられますけれども、居住年数が長くなるほど愛着が高まるという結果になってございます。

続きまして問2「魅力を感じている点は何ですか」、という風にお聞きしましたところ、「都内へのアクセス」、あるいは「広域道路ネットワーク」等のアクセス性の良さを魅力と感じているといった回答が多くございました。

続きまして7 ページ、定住の意思について、でございます。問3「これからも木更津市に住みたいとお考えですか」とお聞きしましたところ、「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」といった前向きなお考えをいただいたのが75.4%といったところで、半数以上の方がそのように回答をいただいております。一方で、「転出するつもりである」「できれば転出したい」という回答が約11%ございました。その結果を年齢別で見ましたのが下の棒グラフでございます。こちらの結果を見ますと、概ね若い世代であるほどグレーあるいは黒の割合が高く、若い世代ほど「転出したい」という意向が多くなっております。

では、その「転出したい理由は何か」とお聞きしたのが問4でございます。右側の円グラフで、「転出したい理由で近いものはどれですか」とお聞きしましたところ、「ほかに住みたい地域がある」21.9%、「住むのに不便であるため」26.5%の回答をいただいております。

8 ページ、「オーガニックなまちづくり」についてご説明申し上げます。この「オーガニックなまちづくりについてどれくらい理解していますか」とお聞きしましたところ、54.8%、半分以上の方が「初めて聞いた」とお答えいただいております。また、「理解し、共感している」あるいは「理解している」といった方の回答割合は6.5%でございました。年齢あるいは居住年数にかかわらず、「初めて聞いた」という回答が多く見受けられる結果でございます。

続きまして9 ページでは、市民活動についてお聞きしております。まず問6「現在の市民活動の状況について」お聞きしております。「現在活動している」、「現在活動にかかわっている」という回答は27.4%というご回答をいただいております。また、「今後参加してみたい」と思う割合としては37.6%と、概ね半数以上の方が活動している、あるいは今後活動したいという結果がございました。年齢別では、およそ60歳代までは年齢が上がるにつれて「活動している」といった割合が多くなってございます。また、この結果から特徴的なところとしましては、50歳代頃から「過去に参加していたが、これからは参加しないつもり」の回答が見られ、80歳代にかけてその割合が増加しているといった特徴が見られます。

また、「市民活動に対する市の取組に満足していますか」という問いに対する回答結果として最も多かった回答が「普通」が58.4%、「満足している」「やや満足している」が23.6%でございました。「今後どのような取組が必要だと思いますか」とお聞きしたところ、半数以上で「市民活動内容などの情報提供」が今後必要であるという風に、回答をいただいております。

続きまして10 ページでは施策の満足度・優先度をお聞きしております。こちらは資料3 アンケート調査票をご覧くださいと思います。こちらは、調査票4 ページ以降にある各施策の満足度・優先度をお伺いした項目がございます。

報告書の10 ページに結果について示してございますが、報告書への記載の仕方といたしまして、加重平均という方法を用いております。加重平均という方法は、「満足・やや満足」等の高い評価にはプラスの係数を、「不満、やや不満」等の低い評価にはマイナスの係数をかけて、結果に強弱をつけるという手法でございます。こちらの手法を用いまして、施策の優先度・満足度をお聞きした結果ですが、左側の図をズームでアップしたものが右側の図でして、まず大きな特徴としましては、市民の方の施策に対する満足度が非常に高いことが挙げられます。図中の番号は資料3 アンケート調査票の施策番号と一致しておりますので、ご参照いただければと思います。

また、参考資料2 としまして、満足度・優先度の特徴について木更津市以外の市と比較して、特徴的なところをまとめた資料でございます。類似する項目には黄色、木更津市に特徴的な項目には緑色で示してございます。

満足度上位5 施策につきましては、緑色の項目が特徴的な項目でございますので、「防災」「交通体系」「防犯」といったところが、特徴的かつ満足度が高かった項目でございます。

満足度下位5施策につきましては、すべて特徴的な結果で、下から「協働によるまちづくり」、「消費者支援」、「人権擁護」といったところが、満足度の低かった項目でございます。

また、次のページでございますが、優先度が高かった項目について記載してございます。特徴的な項目としては「スポーツ・レクリエーション」、あるいは「資源の循環」、「水産業の振興」でございました。

優先度の下位5つで特徴的なところとしては、「質の高い行財政運営」、「土地利用の適正化」、「交通安全」といったところがございました。以上が施策の満足度・優先度の結果でございます。

アンケート報告の最後、11ページでございます。11ページでは木更津市の情報についてお聞きしております。問10「木更津市に関する情報を普段どのような方法で得てみますか」といった質問で多かった回答としましては、広報あるいは回覧板といった所謂アナログといわれる紙媒体で、多くの方が情報を得ているといったところが分かっております。また、年齢別で特徴的なこととしては、70歳以上の高齢者であっても、携帯電話・スマートフォン・パソコンといったデジタル機器で情報を得ていることが分かっております。

問12は自由回答でございまして、「今後オリジナルアプリを検討する上で、どのような情報をアプリから知りたいですか、アプリでどのようなことが出来たらよろしいですか」とお聞きしました。自由回答結果を一覧に並べることは難しいため、テキスト分析で頻出の単語を抽出してございます。文字の大きさが、大きい単語ほど非常によく出てきた単語でして、「木更津市」といった単語はもちろん、「検診」「情報」「災害」「避難所」という単語が非常に多く出ておりますので、検診や災害に係る情報を市民の方はアプリで得たいのかなといったことが考えられます。

#### ④ 基礎調査報告について

##### ○日本経済研究所高崎主任研究員

資料5 基礎調査報告でございます。基礎調査の内容につきましては、木更津市の基本情報、都市間比較、最後に人口推計を行ってございます。順次項目について、ご説明申し上げます。

まず市を取り巻く状況として、2ページ、主な社会状況・経済状況についてまとめてございます。皆様ご存知の部分が多いかと存じますが、主な点といたしましては、「人口減少・少子高齢化の進展」、あるいは「地方創生に向けた動き」といったところで都市間競争が激化しているところでございます。また、「安全・安全意識の高まり」として、ここ最近の地震あるいは大雨により、危機意識が高まっていると考えられます。また、経済につきましては、所謂ビッグデータ、あるいはロボットといった「第4次産業革命」あるいは「グローバル化の進展」といったところで、グローバル化の進展につきましては、最近では海外の方

が日本に来られる訪日客が多くなっていることが見受けられます。また、「働き方の多様化」といったところで、現在働き方改革について議論になっているところですが、ワークライフバランスを重視した働き方も普及しているところがございます。

3 ページ、人口に関するテーマとして、日本の人口に関する傾向でございます。ご存知のとおり日本の総人口はすでに減少の局面に入っております。2045 年に向けては現在よりも約 10% 老年人口が増加すると推計されておりました、人口減少に併せて高齢化といったところも今後進行が見込まれます。そのような中で、木更津市の人口はご存知の通り右肩上がり、2005 年以降増加しているところがございます。

4 ページの財政でございますが、歳入・歳出は微増あるいは微減を繰り返し、700 億円台で推移しているところがございます。また、主要な財政指標からは、端的に申し上げますと概ね良好といったところで申し上げられるのかなと思いますが、一例を申し上げますと、将来負担比率あるいは実質公債比率が平成 20 年以降大幅に減少しておりますので、財政状況については健全な状態と考えられます。

5 ページでは経済規模について記載してございます。千葉県内における経済規模を示しており、木更津市は県内約 2% を占める経済規模で、同規模としては県内では野田市・茂原市・佐倉市・八千代市などが挙げられます。

では、その経済の構造として 6 ページには産業構造を載せてございます。円グラフを一目見てお分かりであると存じますが、木更津市の主要な産業としましては、卸売・小売業といったところが重要な産業となっております。続いて、製造業 12%、建設、医療・福祉などが 10% と、市内の産業を占めている状況でございます。

7 ページではその産業について少々深く分析しております。各産業分類につきまして、バブルチャートという方法で分析した手法でございます。横軸が就業者数、縦軸が付加価値率となっており、付加価値率は馴染みのない言葉ではありますが、収益率に似た言葉でございます。売上の中でどれだけ付加価値があったのかを示す割合でございます。

また、円の大きさが付加価値を表しております。このバブルチャートを見ますと、木更津市では、卸売・小売業が主要な産業ですので就業者数も多く、付加価値額も多くなっております。一方で、縦軸の付加価値率で見ますと、卸売・小売業は低位にありますので、収益率が低いと分析できるところでございます。従いまして市の主要な産業の卸売・小売業、あるいは製造業でも付加価値率が低くなっておりますので、こういった産業で付加価値額・付加価値率を上げるといったところが今後重要になってくるところがございます。

8 ページでは、都市間の比較を行ってございます。現計画の基本施策につきまして 10 項目に分類いたしまして、各統計等の指標を用いて分析してございます。都市間比較でございますので、千葉、埼玉、神奈川の各県の中で人口がほぼ同数に近い自治体との比較を行っております。また、比較の方法につきましては、偏差値に基づく比較を行ってございます。偏差値につきましてはご存知の部分が多いかと存じますが、基本的に周りと比べて値が大きければ偏差値が高くなるとなっております。

9ページ以降で、各項目について分析してございます。時間の都合で要点のみ説明申し上げます。人口構造につきましては、人口増加率が木更津市に関しては偏差値の高い項目となっております。医療・福祉につきましては、介護施設あるいは病床数で偏差値が高くなっている一方、保育所の待機児童といったところで、偏差値が低い結果になってございます。

10ページ、防災・安全でございますが、人口当たりの避難所数、緊急避難所までの距離といったところで概ね良い結果になっておりますが、犯罪件数の偏差値が高くなっております。教育・文化につきましては、生徒当たりの教員数で偏差値が高くなっております。

11ページ、産業につきましては観光客入込客数で偏差値が高くなっております。労働につきましては、自市内の就業率が高くなっております。

12ページ、都市基盤につきましては空き家率で値が悪くなっている一方、人口当たりの飲食店数、小売店数では良好な結果が出ております。環境・衛生分野ではごみの排出量・リサイクル率といったところで値が悪くなっているところでございます。

13ページ、市民協働につきましては自治会数・自治会加入率で値が良くなっております。行財政運営では、実質公債比率が低くなっておりますので、概ね良好な財政と考えられます。

以上をまとめましたのが14ページ、各項目につきまして、ポテンシャル・課題を記載してございます。時間の関係で、人口推計に移らせていただきます。

15ページ以降に人口推計について記載してございます。人口推計につきましては、一般的なコーホート要因法を用いており、使用した各係数としては国立社会保障・人口問題研究所公表値に基づく数値を用いて推計してございます。ただし、移動率としては実績に基づく数値を設定しております。

その移動率の数値の設定につきまして16ページで説明してございます。社会増減数・自然増減数を記載してございます。社会増減数につきましては、転入から転出を引くと社会増減がプラスになるといったところでございます。自然増減数につきましては、出生数から死亡数を引くと出るといったところでございます。木更津市は2006年以降社会増、転出に比べて転入が多い傾向にあり、またその数が自然増減を上回っておりますので、この結果が人口増加に繋がっているといった結果になってございます。

この中で、移動率のパターンを2つ設定してございます。移動率のパターン2についてご説明申し上げますが、近年、木更津市の社会増数は減少傾向にございます。つきましては、直近5年間、2012年から2017年の移動率を一つのパターンとして設定し、さらにもうひとつのパターンといたしまして、以前社会増数が多かった状況を踏まえた2007年から2012年、2012年から2017年の移動率の平均をパターン1として設けまして、人口推計を行ってございます。パターン3といたしまして、全ての係数に国立社会保障・人口問題研究所公表値を用いた推計を載せてございます。

その結果が17ページでございます。各パターン全てにおいて今後人口増加が続く見込みでございますが、最近の社会増減数を考慮しましたパターン2、オレンジの線でございますけれども、こちらの数値につきましては2025年頃をピークに減少すると予測されるものでございます。一方で、これから社会増が回復するというパターンで見込んだ場合につきましては、2025年以降も人口増加が続くという結果が出ております。従いまして、今後転入率等、社会増が続くといったことであれば、人口増加は続くと考えております。

18ページでは、その人口推計の結果について、年齢3区分別に示してございます。時間の関係で説明を省略させていただきます。以上、よろしくお願いいたします。

**○鈴木会長兼議長**

何か質問はありますか。

**○佐藤委員**

結果を見させていただきまして、現状、木更津市の皆さんは非常に満足して暮らされている様な理解ができました。

ただ一方で、少し違和感のある結果というのを感じていまして、今後は人口規模に限界がある中、人口の流入を考えないといけない際に、アンケート調査では地元だけの数字を見ているが、他の地域からどういう風に見られているのかというのをしっかりと把握しなければ、木更津の魅力というのがどんどん（外部へ）出ていかないのではないかと思います。

住んでいたら非常に満足する部分は理解しました。私は未だ2年目で、外から見た木更津市のイメージの方がまだ強いです。その時に、その結果と私の思っているイメージとかなり乖離<sup>かいり</sup>している感じがします。ですので、可能であれば、木更津市以外の方からどう見られているか、市に対する考えやイメージを認識しなければいけないのではないかと感じております。

**○鈴木会長兼議長**

ご意見ということでしょうか。

**○佐藤委員**

はい。

**○企画課小原課長**

有難うございました。差し支えなければ、佐藤委員の感じられている今の市民アンケートのギャップといいますか、そのあたりをご披露いただけますと、私ども非常に参考になります。

**○佐藤委員**

一番の売りとしていわれている交通の便ということなのですが、私土曜も日曜も東京の方まで結構仕事をしているのですが、土曜・日曜、皆さんバスに乗ったことはありますか。東京から帰ってくるのに大体3時間くらいかかります。観光地として非常に人気だから、

3時間か、それも理解できます。地元で暮らしている方にとっては非常に便利だという感覚でしょうが、(他の) 地方から観光で来て「木更津はいいところだ」と思う時間ではないと私は思います。ですので、そういうところを改善できないかなというところがあります。

あと、ごみの回収率ですが、木更津市の各スーパーさんが一生懸命ごみの回収（リサイクル）をされています。その点、横浜や東京では、あまりしっかりされていません。それで本当にその数字なのかなというのは感じます。木更津市の方の意識の高さはすごいと感じています。

市内に長く住まれている方に関するアンケート結果としては非常に理解ができるのですが、新しく来た方、若しくは東京や千葉で働かれている方とのギャップが分かることが、今後木更津市への流入が増えていく一因になるのではないかというふうに考えております。

**○企画課小原課長**

有難うございます。

**○植田委員**

素晴らしいアンケートをされて、興味深く拝聴いたしました。いくつかお伺いしたいのですが、もしデータがお有りでしたらお教えいただきたいのですが、アンケート6ページ、愛着や誇りを感じておられるという人たちが、どういう魅力を感じているのか、そういった連動が情報としてあれば、今後の議論に役に立つのかと思います。

**○日本経済研究所高崎主任研究員**

問1と問2につきまして、クロス分析をすれば結果は出ると考えていますが、現時点でデータを持ち合わせておりませんので、後日というふうなご回答でよろしいでしょうか。

**○植田委員**

今後ご提示いただけるということでよろしいでしょうか。

**○日本経済研究所高崎主任研究員**

はい。

**○植田委員**

ついでに是非、7ページの転出をするつもり・できれば転出したいといった方の理由はあるのですが、ずっと住み続けたいといった方の理由は何なのか。続けて、8ページの「オーガニックなまちづくり」を理解している方たちの属性というのはどうなっているのでしょうか。その辺りも解析していただけるのなら、知りたいと思います。

**○日本経済研究所高崎主任研究員**

追って対応いたします。

**○植田委員**

有難うございます。

**○企画課小原課長**

今後、市民アンケートにつきましてはクロス集計を充実させていきまして、委員の皆様にも資料を改めてお示ししたいと存じます。特に、6ページにあります木更津の魅力という

部分では、項目でグラフ化しておりますが、佐藤委員からご質問いただきましたように、クロスすることにより居住年数の少ない方が、木更津に移り住んで間もない方がどのように魅力を感じていらっしゃるのかという部分にも触れて、分析して参りたいと思いますので、暫くお待ちいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○鎌田委員

質問ということではないが、アンケートの8ページ、「オーガニックなまちづくり」について、初めて聞いたという方が半分以上いらっしゃる状況に個人的には大変ショックを受けています。現状だということでは受け止めてはいるが、この取組に対して、個人的には共感しておりますので、今後大いにPRを続けていっていただきたいと思います。

#### ○野口副会長

「オーガニックなまちづくり」について、私自身、聞いた当初は何のことかよくわからなかったが、だんだん理解していくと素晴らしいひとつのまちのあり方であると理解できました。

なかなか小耳に挟んでも理解するのも難しいので、地域ごとに色々な集まりがある際に、担当の方が行って、繰り返し説明すればだんだん浸透していくのではないかと思います。本当に素晴らしい、誇りをもてるテーマであるので、是非浸透するように、大変でしょうけれども、小単位での説明機会を増やすべきだと思います。

#### ○佐藤委員

「オーガニックなまちづくり」の取組については、読ませていただいて、共感しているところです。

ただ、オーガニックという言葉自体は、かなり時代時代によってイメージが変わってきています。私を含めて、「オーガニックっていいな」と思うわけですが、広告業界ではオーガニックは非常にネガティブな言葉なのですね。なので、そういうのをちゃんと年代別に理解されて、年代を上手く捉えてやれたらいいのかなと、個人的には思います。

#### ○野口副会長

質問ですが、ネガティブなとはどういう意味なのでしょう。

#### ○佐藤委員

インターネットにおける広告業界では、オーガニックというと数量対策として、言葉をうまく入れて、アクセス数を増やそうとする広告をやらない時の数字、(アクセス数を増やすための検索連動型広告などの広告表示を除くこと)、つまり何もやらない現状維持という意味で、オーガニックと使います。どんどん時代によって言葉の意味が変わってくるので、注意が必要なのかなと感じます。

#### ○鹿島委員

私も、このアンケートの質問を見た時に、「オーガニックなまちづくり」を皆さんが理解しているのだろうか感じていたんですが、思った通りのような数字が出て参りました。外来語を使っているの、言葉としては心地良いが、意味がよくわからないという部分があ

るかと思います。高齢者の方もだんだんと比率が多くなってきますので、分かりやすい言葉とかキャッチフレーズにするなど、配慮が必要かと思います。この施策が悪いのではなくて、そのあたりの説明が必要と考えます。

#### ○企画課小原課長

ご意見有難うございます。私ども「オーガニックなまちづくり」を進めていくにあたり、様々な声をいただく機会が多くございます。その中には、「オーガニックっていいよね。」という言葉の反面、「オーガニックって何なのかな。よく分からない。」という声を聴くのも事実でございます。今まで、何となくそのような声は聞こえてきたのですが、今回の市民アンケートを通じて初めて実態が見えた次第でございます。

一番ショックに感じているのが、初めて聞いたという方が54.8%いらっしゃる事です。我々は、「オーガニックなまちづくり」「オーガニック」について広く叫んでいるつもりでも、なかなか目にする事、耳にすることがまだまだ足りないんだということが、改めて確認させて頂きました。真摯に受け止め、これからのまちづくりを進めていく上で、「オーガニックなまちづくり」を皆様にご理解いただくということについて、改めて色々なところで取り組んでいきたいと考えております。今いただきました貴重なご意見も含め、これからの4年間にに向けてしっかりと捉えてまいりたいと考えております。有難うございます。

#### ○野口副会長

アンケート報告7ページについて、転出したい理由は色々あるのですが、住むのに不便、他に住みたい地域があるという部分について、不便な点や他の地域と比べて木更津市に不足している点等についても掘り下げていくことも、定住人口を増やすための取組につながるのではと思いました。

#### ○渡辺市長

日本経済研究所の方に、分かればお答えいただきたいのですが、問1「愛着や誇りを感じている」と、問7「市民活動への参加状況」に関する設問について、他の市のデータはお持ちでしょうか。この結果が、高いのか低いのかということについて気になります。

#### ○日本経済研究所高崎主任研究員

この段階では明確にお答えできないのですが、出来る限り事務局の方と相談し、データを収集してご報告申し上げたいと思います。

#### ○野口副会長

先ほどご意見を伺ったのですが、特に土日の交通渋滞はまちの発展のためのブレーキとなっています。これについては、どのようにアクアラインだけではなく他のルートに回遊させるか、というのがありますが、ぜひ地元の要望として、高速道路の連絡道の側道二車線化を希望します。そうすれば、もう少しスムーズになるのかなと考えます。というのは、こんなに混むのだったら、観光に来たくなくなってしまい、もうちょっとましな湘南のほうがいいやと、1回来て嫌になっちゃうので、是非、大きなテーマとして扱っていただく

ようお願いいたします。

### ○企画部山口部長

アクアラインまたは金田地域の交通渋滞緩和に向けまして、千葉県への要望・協議を始めているところでございます。木更津商工会議所様におきましても、県の商工会議所連合会を通じ、千葉県への働きかけを行っていただいているところでございますので、今後関係機関と調整し、必要な働きかけは行って参りたいと思っております。

### ○鈴木会長兼議長

他にご意見ございませんでしょうか。無いようでしたら、ここで議論を閉めさせていただき、委員の皆様からお一人ずつ、それぞれのお立場から今後の木更津市のまちづくりについて3分程度ご発言をお願いいたしたいと思っております。

### ○阿曾委員

市民活動支援センターで活動に携わらせていただいております。まちづくりには一人ひとりの市民の力が発揮されることだと思いますが、木更津市に住んで10年なのですが、良いまちだと思っています。嫌な人に会ったことがなくて、市民活動をしていても、協力してくれる方がすごく多いです、市役所の方にもすごくたくさん助けていただいて、市民活動と事業者、行政の連携が出来るといいなと考えています。

例えば、私も市民活動を始めて6年になるのですが、ずっとボランティアとしてやってきたこの経験を事業化できないか、そういった成長していくにあたって、ルートがあると良いと思います。そういう風にやってみると、小さな活動から成長して行って、自分の力をつけていった先に、このまちに今度は仕事として貢献出来る、そういったルートがまちとして出来ていると、木更津市ってやりたいことでどんどん人が成長していけるまちになるという打ち出し方が出来るのではないかなと、自分の経験から感じているところです。

### ○植田委員

千葉大学で教員をしています、植田と申します。よろしくをお願いいたします。実際には工学部のデザイン学科というところなのですが、実はオーガニックと同じような立ち位置でございまして、デザインという概念は非常に広くございます。

私は木更津市の住民ではございませんで、千葉大学のデザインを学ぶ学生が、デザインの行きつく先である生活の現場を、直接五感を通して学ぶという経験を提供するような授業をしておりまして、木更津市様にお邪魔させていただいている状況であります。そういった中で、非常に元気な活動をされている方や素晴らしい資源、歴史・文化、農産物や風景等、様々な魅力があるなあというのが私の実感でもあり、学生もとても感じてくれているようでございます。

実はそういったものを活かしていくデザインに取り組んでおりまして、モノ（工業製品）の色・形だけではなくて、生活を豊かにしていけるような資源の使い方、そんなことを私

どもはデザインと呼んでいまして、常々、伝えることが難しいなと思っております。

ただ、その様な学生の活動も快く受け入れていただいておりますし、これから私自身も、学生を連れて、生活に関する様々なことを学ばせていただきながら、何か活動を活発にしながら、まさにこの「オーガニック」という部分が育っていけば、そんなことを一緒に取り組ませていただければなあと思っています。

そういう意味で、あるものを上手く使って、是非、人々が活性化というか、元気になる、そんなところに私どもも関与していければと考えています。

### ○荻原委員

東清川に住んでいる荻原と申します。私の住んでいるまちでは、少子高齢化がかなり進んでいて、一部分では40代前半くらいのまちがあって、一部分では55歳くらいのまちがあって、そういうまちが一つの組織となっているのですが、これから少子高齢化が進んでいく上で、木更津でも今気になっているのが、小学校の統廃合、中学の統廃合という問題はかなり大きく出てきているので、その辺の住む人達のことを考えてやってほしいなあ。

ただ、統合すればいいという問題ではなくて、その地域から学校がなくなるということは、地域の旗印がなくなるということで、かなり住んでいる人達にとっては大きな問題という風に思っています。

出来れば、もう少し過疎の地域にも目を向けてもらって、大きなまちと同じように皆が楽しく生活できるようなまちを考えてほしいなという風に思います。

### ○鹿島委員

鹿島でございます。私は木更津で生まれて育って、いずれまた木更津で土に還るという生粋の土地っ子でございます。

小中学校の時は、木更津市民歌を式典の時に必ず歌っていました。非常に歌詞もリズムも良く、何となくその歌詞の中から「あ、木更津って素晴らしいところなのだ。その木更津市民の自分も一員なのだ。」という誇りや連帯感などの熱い想いがこみ上げてきたのを、今でも覚えております。文化協会でも、この2年くらい前から総会では市民歌を歌うようにしているのですけれども、市民歌が昭和22年に出来て、木更津市制施行5周年の節目に、市民が作成した曲ですけれども、ちょうど終戦後の復興の機運が高まっていて、非常に躍動感のある歌で、今でも歌詞がそのまま通用するような状態です。

まちづくりと直接関係するかどうかは分かりませんが、今も学校で歌っているのかどうか、なるべくその歌を歌ったり聞いたりする機会があって、市民の連帯感や一体感が高まる、そういう市民歌を活用してはどうか、と日頃から思っております。

文化協会の方は、平成も30年になって、市民生活も非常に豊かになり、モノの豊かさから心の豊かさに変わってきているのではないかなと思いますが、協会でも会員が290名ほどですが、それぞれの分野で切磋琢磨して、生きがいを感じながら地域の文化の発展に尽くしているところでございます。

高齢会員の方が多くなっていますが、活動を通して思考を活性化させて、それが健康維持に繋がったりしておりますので、人として、心の栄養といいますか、芸術文化活動を通して、住みよい心地よい社会、人づくりをしよう。そういうことがまた、社会の成熟にも繋がっていくし、高齢化社会における発展にもなるかなあと考えております。

市民歌の「文化の花咲く自治のまち」というような歌詞がありますが、引き続き、その様な活動を通して、まちづくりの一端へ寄与していけたらと思います。

#### ○鎌田委員

社会福祉協議会の鎌田と申します。福祉施策を進める上で一番大きいのは、なんといっても高齢者福祉といったところでございます。直近のデータによれば平成30年7月末で高齢化率（65歳以上）は27.34%、近い将来3割になるという状況が見えてきております。今までの行政の主導する施策だけでは立ち行かなくなると考えられます。そのために社会福祉協議会がある訳でございますけれども、地域の高齢者の課題に対し、頑張っていたいただいているのも高齢者という状況で、高齢者と一概にいいましても、気力も体力もまだ備えている方を、地域の財産という風に目を向けて検討すべきかと思っております。

もう一つは、市内の状況が地域によって全く異なり、古くからある地域では高齢化が課題となっており、新しい地域ではむしろ子育てに対する支援が必要となっております。また、地形によって災害時の対策も全く対応が違ってくる、そういった状況を踏まえまして、行政ひとりが頑張っても必ずしも解決しない、という意味では、地域に拠点を持って地域の方たち自身がお互いに課題を解決するようなシステムが必要という風に思っております。

今、福祉部の方と協議しておりますのは、生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカー等、高齢者の生活を支援していく、あるいは一般の方の不便に対応していく、そのような地域ごとの対応を民間などの力を使って、課題解決に向けていくということが必要なだろうと。それはまさに行政と市民の協働、あるいは市長のおっしゃる「市民総出のまちづくり」、最後は「オーガニックなまちづくり」というところなのだろうというふうに思っております。

今、社会福祉協議会はファミリーサポートセンターを立ち上げております。これは子育ての手助けをする制度でございますけれども、例えば、共働きの若い両親が子どもを一時預かってほしい、あるいは子どもの塾の送迎が出来ない、そういうところで手を差し伸べてくれる方はいませんかとマッチングをするわけでございますけれども、現在、依頼をする会員が43名、提供する側が71名、依頼・提供両方が16名でございます。もっと増やしていかなければならないのですが、今でもそういうふうにお互いに助けあおうという精神をお持ちの方がたくさんおりますので、それを施策に是非反映させていただければと思います。

#### ○佐久間委員

千葉県宅地建物取引業協会 南総支部の佐久間です。宅建協会南総支部は、会員として314、協会の中では比較的大きな、範囲が広いからですが、非常に大きい支部とな

っております。その中でもこの２年間では、木更津地区の方に、支店だとか新規開業で新しく入会される方が非常に多くて、他の支部では会員が減っているところ、南総支部では逆に増えているといった状況になっている位、木更津は有望なマーケットになっているようです。

実際、先ほども出ましたけれども、君津の辺りに住んでいる方に言われますが、土日、ゴールデンウィークや正月については非常に大渋滞で、普段１０分程で行けるとところに１時間・２時間かかってしまう、そういった面も出てきているのですが、そういった意味では実際に満足している人はどれくらいいるのかな、といった感想を持っています。

それと私自身、出戻りで木更津に戻ってきましたが、他市と比較すると良いところもあるし悪いところもあるし、どちらかという住民サービスについては少し劣っているのではという認識もあるので、佐藤さんのおっしゃる通り、外部から見た場合実際はどうかという点を調査するということに、個人的には賛成かなと思います。そういった意味で、宅建業者として協力できればいいなと思っております。

#### ○佐藤委員

先ほどから勝手なことを言って申し訳ございません。私自身、木更津のイメージは海・山があって買い物するところがあってすごくパーフェクトなまちというイメージなのですね。しかし交通的に少し厳しい。でも、三井アウトレットパークには年間８００万人いらっしゃるそうなのですが、それがさらに増床するということは、さらに交通渋滞が酷くなるということが目に見えて予想されます。

それらを踏まえた上で、市の良いところを外部にアピールして欲しいです。例えば、海の魅力を最大限に活用するために、三井アウトレットパークから木更津港へ観光船を走らせるような形で、一つの大きな柱がないと、木更津駅には誰も来てくれないんですね。

私の地方から来た友人で、東京のホテルを探そうとしたが全然取れない、とってくれと言われたので、じゃあ木更津で取りましょうと言って、木更津でホテルを取りました。羽田からバスで来てもらい、「便利だね、でも木更津駅前で木更津名物が食べられないじゃない。」と言われ、私は車で少し遠くまで連れていき、そこで食事をしたのですが、そういうところで、もっと自慢できることを皆さん自慢していないのだなあということをすごく感じています。

とにかく、三井アウトレットパークにあんなに（多くの）人が地方から来ていて、こっちの駅前まで連れて来られないのは寂しいじゃないですか。特に今、袖ヶ浦の駅前がすごく綺麗になっていて、完成予想図とか見ると、タワーマンションとかも建っていて、そっちに持っていかれちゃうのではないかと、木更津<sup>びいき</sup>巔<sup>びいき</sup>になっていますので、悔しかったりします。ぜひ、いい木更津になっていただきたい。そのためのアイディアを出す面では協力いたしますので、是非いいまちにしていって下さい。

#### ○瀬沼委員

木更津市産業・創造支援センターの瀬沼と申します。当センターなのですが、先ほど木

更津の魅力に関するアンケート結果項目の一番下で、現時点では0.6%程しか、市民の方から支持いただけていない状況です。

私は、今年の2月から2代目のセンター長として就任しましたが、何としてでも産業構造ならびに事業者のためにやっていかなくてはならないなど、改めて今日このアンケート結果と皆さんのご意見より考えた次第でございます。

全体で言いますと、佐藤様がおっしゃったのと近いのですが、木更津市内の方々を会社で例えるならば社員であります。今後新しく社員を採用しよう、というのが転入であれば、市外に向けたアプローチが必要となってきます。ターゲットとする方たちがどんなことを望んでいるのか、といったことをリサーチした上で行われるのが望ましいと考えられます。既に今あるデータも含めて、例えばどんなことを東京都内の方が望んでいて、そこ木更津の強みがマッチングできるのかといったことについて、出来ていない部分やもったいない部分について確認できればいいのかなという風に思いました。

もう一点、お金をかけずに売上を上げることがうちのセンターのミッションとしてありまして、同じように、市にとってもまちとして、お金をかけずに出来ることがあるのかなというところで、やるべきところは2つということで、1つはコラボレーション、連携、2つ目はパブリシティ、お金をかけない計画的な広報活動、この2つかなと思っております。どういうことかと言いますと、一つの会社だけで出来ることは限られていますし、その会社が新たに設備投資等の新しいことをやるにはお金が必要、しかし、既に設備を持っている市内の会社と共同で事業を行う、行政と民間が協働する、といったような様々なコラボレーションを行うことによって、出来ることはあるのかなと思います。実際、当センターの方でも、6か月間ですが、様々なコラボレーション、連携を進めておりますので、行政と民間、並びに民間同士、若しくは市外を含めた様々な連携を進めることにより、木更津市内、市外との連携というのも強化できるのかなと考えております。

また、今回のアンケート結果で上手くいっているという結果になったことについて、市外並びに都内に伝わっていないと考えられますので、お金をかけて氣志團さんとの契約をする等という手もありながら、お金をかけずに発信することも可能と考えています。それは何かといいますと、東京都内ならびに関東圏のメディアに「木更津」という名前が出ることであります。現在、当センターではパブリシティを強化しておりますので、その中で木更津でこんなことが出来るということを連携した上で、やっていきたいと思っています。

というのが全体像なのですが、それを実際にやっていく側に私がおりますので、今、6か月間でやっていこうとしていることでは、産業支援として、市内事業者様の売上アップのための全ての相談対応をしています。また、これから市内で創業したいという方達のための創業支援をしています。

創業支援に関しましては、今後、高齢者や働きたいけれども働いていないママ層に向けた創業支援を強化したいと考えています。また、木更津市で育った方が、都内に行かずに市内で仕事を見つけられる、そんなことへの支援も行っていきたいと考えております。

産業支援に関しましては、現状、サービス業や飲食店などの小売店様が多くを占めております。こういった方々は大手等の他店舗との競争環境に常に置かれていますので、それぞれの事業所の強みを見出し、その強みに光を与えていくことについて、コラボ及びパブリシティに軸を置き、お金をかけずに有言実行で結果を出していきたいと考えております。

また今後、駅前を中心とした空き店舗、特に駅前西口について、諸事情があるのは半年間で分かったんですが、このままですと市外から移住するに際し懸念事項として考えられますので、我々としては、これから新規創業する方の誘致を考えております。

もう一つは耕作放棄地の問題であり、畑や田んぼだったところがまだまだ空いておりますので、これから事業をやりたいという方々に対して、様々なご提案をして参りたいと思っています。

もう一つは、第1次産業というところで、農業並びに水産業の名産品化が出来ればと思っています。また、例えばやっさいもっさいなどを含めた様々な地域資源があります。市民の皆様の市に対するロイヤリティが高い部分を武器として、市外並びに東京に発信することによって事業化並びに売り上げアップを図っていききたいと考えています。

最後に、環境的には働くママや高齢者の方々の就労支援がカギになります。人口が減ってくる中、いかに労働人口を増やすかというのが大事だと思いますので、そこに関してもやっていきたいと思っています。ということで、私自身も皆さんの意見を受けて新しいことを実行していく部隊でありますので、様々な発言をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### ○中村和人委員

君津木更津医師会の中村でございます。医師会の方としては、アンケートの結果として非常に満足度・優先度が高いと書いていたので、行政の方に感謝したいなと考えております。国の政策にもありますけれども、介護事業として包括センター等の内容を充実させようと、医師会の方ではやっているところでございます。

また、個人的な意見としましては、先ほど荻原さんが言われていたように、私も木更津出身なのですが、ちょっと地方なのですね。そちらの方にもちょっと目を向けていただければと思います。まず、交通網が1時間に1本しかこちら（駅前）に出られないので、袖ヶ浦だと「ガウラ号」とか循環バスが走っているようなので、そのあたりも考えていただきたいと思います。私も一回外に出て帰ってきた人間なので、今とても住みやすいとは正直思っていないです。うちの方の地区では、まず転入がないので、帰郷というところをさせないといけないのかなとは思っているのですが、そのためには交通網がある程度なければ、子どもに対し、帰ってこいよとは中々言えない状況であります。

#### ○中村俊昭委員

公募委員の中村でございます。木更津に来て30年以上になりますけれども、病気でもって手足が不自由になっていますけれども、歩くのが好きで、市内のほとんどを歩いていると思います。お墓や神社を回るのが好きで、そのようなことを通して木更津市への4つの

提案を考えています。

一つ目は国との連携をもって開発して行かなければならないというふうに思っています。先ほど佐藤さんが言われたように、海があって空があって山があり、2つの大きな川が海に注いでおり、条件的には非常に良いのです。まず、羽田空港の便はすべて木更津上空を通っていきますけれども、羽田空港が木更津にあったならば、飛行機でもって10分以上違うのですよね。だから、大きなことを言うならば、今の自衛隊を羽田空港の第4滑走路として対応されたいと考えています。

もう一つは、木更津港について、千葉港は国内で2番目の港であります、それよりも木更津港はもっと良い条件を備えているので、その辺を活用すれば非常にいいのではないかと思います。

もう一つは、震災などの災害時に、天皇陛下の避難場所（ロイヤルシェルター）として、木更津までヘリコプターで20分ほどで行けて、安全な場所ということで、天皇陛下の保養地をアカデミアパークあたりに造ればいいのではと考えています。そうすれば半日若しくは一日、天皇陛下に市内に留まってもらうことができ、木更津は安全な場所であるという理由でもって、木更津に住みたいという人が増えるのではないかと思います。

もう一つは、小櫃川と矢那川の注ぐ東京湾を大型の生け簀に見立てて（木更津市の海を）推進していくのが良いのではないかと思います。

（渡辺市長退席）

## ○野口副会長

木更津市観光協会の野口でございます。最近、木更津市の観光協会はDMOという組織を立ち上げました。聞きなれない言葉ですが、観光としてのプラットフォームのような形を考えていただければと思います。これまでは道案内が中心でしたが、旅行業の資格を取って、いろんな意味で中心的な観光センターというふうになっております。

一言で申しますと、木更津というところは「住みやすいねえ」というまちを最終的にはつくっていく、そして住んでいる人々は仕事もあり、豊かで、訪ねて来てもとても良い、という「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを行っていく、それが木更津の理想とする観光の姿であります。

そしてその中心としての考え方にあるのが、市の推進している「オーガニックシティ」であります。先ほど佐藤委員がおっしゃったオーガニックの解釈もあるとは思いますが、木更津市の目指す「オーガニックシティ」とはこういった意義だということは、はっきり出ておりますので、是非、それを前面に押し出していいただければなあと思っております。

ここ一年位で、市で主催している行事で、私が一番感動したのは「オーガニックフェスティバル」なのです。初めて参加したのですが、本気でオーガニックに取り組んでいる人は、ほとんどが若い人なのです。年取っている人間ではなく若い人が、人によっては移り住んでやっている、すごいなあと思っています。こういうことをもっともっと、外に発信出来たら、あの状況を目の当たりにしたら、本当に住みたいなあという動きに直結すると

思っています。若者が、要するに自分のリスクでもってやっている、これは本当に素晴らしい木更津の取組であり、そして、少しですけれどもそういう実績があります。

これは是非、SNS 等いろんな形で情報発信していただいて、「木更津はこんなに良いところだよ。」といったところで、所謂<sup>いわゆる</sup>まちなかでないところでも、仕事場ができ、若い人も田舎に住み、活性化していくと思っております。

「オーガニックシティ」という木更津の旗印は、全く本当に素晴らしいことであり、そしてまた、それを本気でやっていращやるのは若い人が中心です。是非これをもっと広めて、木更津に若い人達に移住してくるまちであるように、また、観光でも一過性ではなく、一週間や一か月間連泊する長期滞在型観光を目指しているわけであります。

### ○平野委員

色々申し上げることになりますけども、私は木更津市保育協議会の平野です。実は4年前も参加しておりますが、まずアンケート調査の6ページの、魅力は何ですかといったところで、「子どもを産み育てやすい環境 7.8」、「子育て支援センター 3.5」、子育てにかかわる項目がこれだけしかございません。

それで先ほど調べましたところ、平成29年の国の合計特殊出生率1.43に対し、木更津市は1.8とかなり良い訳です。出生数は94万6千と前年比で3万人減っています。木更津市の場合、ここ5年間、毎年千人程度で推移している状況です。

基本調査報告の2ページに、現状ということで、自治体間競争の激化という事項がありますが、先ほどから話が出ていますが、袖ヶ浦市では子育て環境の整備というのを市の大きなテーマとして掲げておりまして、日本一子育てしやすいまちを目指すというふうな取組がございます。おそらく10年前の合計特殊出生率1.43と、現在における1.43では出生数としては大きく違うと考えられます。つまり、女性そのものが減少していますから、合計特殊出生率は上がっても出生数は減っているという現状があります。

ただし、木更津市に待機児童が増えている原因としては、2か所の大型商業施設によって、女性の就労の場が増えていること、全体的に労働人口が減っている中、国の施策で、女性もお年寄りも働けるうちは働きましようという政策で、そういったことから木更津市の保育ニーズというのはおそらく待機児童数に表れており、これからも減ることはなく、逆に増えていく可能性があります。これは保育所等、保育施設の整備で解決されますが、それ以外に、核家族が当たり前になっており、身近に頼れる身寄りあるいは知り合いがないという家族が増えています。

平成29年度から木更津市は、子育て世代包括支援センターを開設しました。これは妊娠期から子育て期にかけて一貫した支援を行うものでありますが、子育て支援にとって非常に重要な役割であり、この辺をさらに充実させていただきたいと思っています。

それから基礎調査報告書の4ページ目、木更津市の財政指標であります。これを拝見する限りでは、財政状況が改善されている状況が見て取れますけれども、限られた財政資金を集中的に投入するような方向で基本計画をつくるべきかなと、あまりにも総花的にし

た場合は政策効果が上がっていかないのではないかと、そのようなことを考えております。

### ○松田委員

最後になりましたが、木更津港運協会の担当をしております。木更津港の問題について少し触れる必要があると思います。木更津港は経済問題、環境問題、観光問題の3つに分かれるのかと思います。

まず経済問題は、木更津港は昭和43年から重要港湾になりまして、名古屋港が1番で、千葉港は（平成28年度海上出入貨物トン数総数）2番、木更津港は何とか頑張って10番（平成28年度の港湾統計年報によれば14位）に入っていますけれども、立地条件は千葉港よりも木更津港のほうが良い訳ですから、それを今後どうするかという問題が残っておりますけれども、一応、国の方は国際バルク港でうちの方を優先させていますので、今の木更津航路（の水深）が19mあります。それを、どうしても（国際）バルク港にして23mにしたいのですけれども、予算の問題があるので、それでちょっと遅れています。

中ノ瀬航路が今、水深23mありますから、これが可能になると千葉港に匹敵する大きな船が入る条件は整います。ただし、お客はどうだとなると、圏央道があと4～5年かかるわけですよ。圏央道が完成すると、物流が千葉、横浜、東京、川崎よりも木更津が重要になってきますから、木更津に物を揚げるようになりますので。ただ、今のところ未だ圏央道が出来ていない。圏央道が出来ないうちに建物は考えているのですけれども、だから木更津港は圏央道が出来れば、荷では千葉港を抜いていくという状況になるかと思います。

ただ、問題は木更津の航路が、ちょっと狭いですよね。大きな船が回れませんから、その辺の問題をどうクリアしていくか。それで、県の方も今年度から新しい審議会が秋には始まりますから、県の審議委員になっていきますので、その辺で木更津の航路の問題をやっていかねばならない。

すると後は、航路が狭いと、大型船の場合は今の航路で良いのですけれども、観光クルーズ船だとか高速艇なんかあるのですけれども、これの航路については、どうしても航路が一旦木更津港を出て、西に向かうんですよ。だから、東京から来た船と木更津から来た船だと、どちらかという東京の方が早いです。本来は、木更津港を出て、そのまま浦賀水道航路に出るほうが早いのですが、航路がそうになっていますから、クルーズ船だとか高速艇を呼ぶのであれば、航路の変更をしないと意味がないと思います。

できれば高速艇は内港に入ったほうが良いのですよ。木更津港は、海の入り口と呼ばれていますけど、内港に入れないです。何故内港に入れないかというと、中の島大橋がありますけど、あの橋を大きな船はくぐれないのです。どうしたらくぐれるかとなると、自衛隊の協を航路にできれば、中の島大橋を取らずに済みますけど、今後木更津が観光でクルーズ船などを呼ぶのであれば、中の島大橋を取らなければならないという問題があります。

最後になるのですが、環境問題についてですけど、正直言って、観光と環境はバッティングしますから。一番良い例が、東京湾の最後の自然の干潟として残っている盤洲干潟は、それを何とか守らなければいけないが、観光問題との兼ね合いであって、明かりが漏

れちゃうから、夜に野鳥類が休めないという問題があります。観光業者側にも配慮してもらって、現在は何とか野鳥が一応いる状態となっている状況です。

別の意味での環境問題として、潮干狩りもアサリがないという問題があります。アサリがない要因としては、(昨今) 矢那川の氾濫が起きないものだから、土が流れないです。だから盤洲干潟のヘドロが、毎年増えていきます。だから、生物にとって非常に環境が悪いわけなので、昔のように流れていくようにしたいのだけれども。

そういう意味では木更津の内港も、昭和36年に遊泳禁止になって、もう50年以上経つわけです。お台場や横浜などはウォーターフロントといって自然に親しんでいます。ところが、木更津は残念ながら大腸菌がいて、未だに泳げないわけです。まずは自然に土を流すのは、ダムから台風などで流れてきたヘドロがたまって、腐ってから除去するんじゃなくて、市で予算化して半年に一度内港のヘドロ除去を行うとか。内港の大腸菌をなくして、海を少しでもきれいにする方法として、市内の河川に例えば活性炭を設置して、ある程度ろ過された水が内港に流れ込むようにするといった方法があるが、そういうところに取り組んでいただければ、大腸菌がいなくなって木更津の内港で泳げるようになるし、海はきれいになるし、すべて良くなると思いますよ。

そういうことで、海のことだけではありますが、色々やっていければいいのかなと思います。今後、海のことについてはお願いいたします。以上です。

**○鈴木会長兼議長**

ご意見有難うございました。熱い想いを、計画に活かしていただければと思います。

**○企画課浦邊主査**

色々と有難うございました。第2回審議会につきましては10月から11月を予定しておりますので、またよろしくお願いします。

**○鈴木会長兼議長**

皆さん大変お忙しい中、長時間有難うございました。第1回目をこれで終了させていただきます。また、よろしくお願いいたします。

第1回都市総合開発審議会の内容について、上記のとおり確認します。

平成30年 9月5日

都市総合開発審議会 会長

鈴木克己